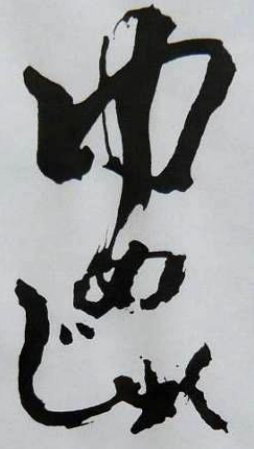


第24回四国ブロック隣保館女性職員研修会

「地域の拠点となる隣保館をめざして ～寄り添える女性職員であるために～」
主催 四国ブロック隣保館連絡協議会



地域の拠点となる隣保館
をめざして、寄り添える
女性職員であるために



6月13・14日（木・金）四国ブロック隣保館女性職員研修会が香川県宇多津町で開催された。四国4県から130名あまりが参加し、各県の代表による事例報告をもとに研修が行われた。どの館の女性職員も地域の方々と深いつながりのある接し方ができているように思われた。シンポジウムの主題にある『香川県隣協100円モーニングの取り組み』は、地域住民へのアンケートの結果から「憩いの場」「気軽に集える場」の創設を求める声にこたえて始まったのがきっかけとか。一つの館の取り組みが、今では香川県全体の17館で行われている。各館それぞれが、地域性や主管課との調整を図りながら新しい事業展開につなげていっているようすがよくわかる研修会でした。瀬戸会館にもあるのをご存知ですか？『**来てみんかい** 来観会』がそうです。一度来てみてくださいね。

瀬戸会館だより
平成25年7月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.nihama.
ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

放課後はさくらクラブで

泉川小学校の放課後児童クラブ（さくらくらぶ）に6月20日（木）お邪魔させていただきました。ここで当館の神野指導員が月に2回本の読み聞かせをしている。

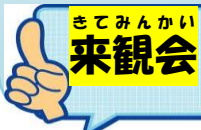
授業が終わった児童がつぎつぎ集まりはじめ、読み聞かせを聞く態勢に座る。最初の本の題名は『空のおくりもの』で雲をつむぐ少年のお話。二つ目は『はははのはなし』という本。「は」は歯のことで、歯の大切さをわかりやすく説明していて、文章のリズムもよい。本に出てくる「むし歯になりたいのかなー」の箇所思わず「なりたいです」と反応した前方にいる男の子。そして大人と子どもの歯並びの違いを大きな図にした絵を見て、みんなが目をみはる。

読み聞かせが終わると、みんなで「お礼のことば」。早速机を並べかえてお勉強の準備。それぞれが学習帳、プリントなどを取り出して鉛筆が動きだす。そこへお父さんがひとり、子どもを連れに来た。どうやら、このあと楽しいオヤツが待っているとのこと。



7月の主な行事予定

- 3・17・31(水) — 移動図書館
- 人権のつどいは四国地区人権教育研究大会のためお休み
- 4(木) — 絵本・紙芝居 お話し会
- 30(火) — 出前講座 瀬戸児童館より
泉川小学校放課後児童クラブ



18日(木) 相談室
(19:00~21:00)

サークル訪問 健康体操教室

このサークルもこの4月から当館で活動開始。会場では軽やかな音楽に合わせて加藤秀美先生のリズミカルな指示がとぶ。しかも歯切れの良い響く声で。手の動き、そして体全体の動きなどすべての動作に「息を吸って」「息を吐いて」の指示がでる。その指示もやさしく「鼻から吸って一ゆっくりと」となる。さらに時々「呼吸は鼻から」とタイミングよく確認の声。

先生はメンバーの皆さんに向かって正対したり横を向いたり、後ろの姿を見せたりと、文字通り目の前で「見本」の動きを提示する。メンバーからの声は「わかりやすい」と。また「声を聞くだけでも元気になる」というのもあった。

途中ほんの少し、1分足らずの休みをとって水分を補給。すぐに戻って再び開始。この日の体操が終わると、一斉に各自が用具をもって清掃開始。楽しそうに声をかけ合いながら、これまた無駄のない動きに見えた。

ただいまメンバー募集中、男性もOKだとか。動ける服装、タオル、水分補給用の水を持参してほしいとのこと。

毎週金曜日 10時から1時間の活動です。



人権あらかると

同和教育は必要か（2）

角岡伸彦（ノンフィクションライター）

私は大阪大学で非常勤講師として部落問題を教える立場でもあった。授業の骨格を「部落問題を通して日本社会を考える」に決めた。授業の目的、ねらい：人はなぜ差別するのか、差別はなぜ残っているのか。どのような局面で人は差別するのか。現代社会に残り続ける部落差別を中心に、その現実や背景を探る。

私は最初の授業で、自分が部落出身であることを話す。半数以上の学生が部落民と会ったことがないので、驚く学生が少なくない。はじめは違和感や違い幻想、マイナスイメージを持っているが、受講すればするほど変わってくる。また、そうならなければ、教えている意味がない。

私が同和教育は必要であると考えるのは、いまは知らなくてもいずれ部落問題に出会う機会があるかもしれないと思うからである。たとえば東京の中学生が、将来、大学進学や就職・転職で部落の多い地域に住む可能性は充分にある。そうでなくても、東京には部落があるし、移住した人も含め大勢の部落民が住んでいる。噂や伝聞によって部落問題と出会うこともある。「あそこは怖いところやから近づかんほうがいい」「あの人とは付き合わないほうがいい」と言われたとき、何も知らなければその情報を信じ込んでしまいかねない。

仮に部落問題と一生出会わなくても、知らないよりは知っておいたほうがいい。会社員は自分が属する会社がどんな組織であるかは知っておくべきだろう。同じように私たちが住む日本がどんな社会であるかを知っておくべきではないだろうか。

角岡 伸彦『初めての部落問題』（文春新書）より

父の日のプレゼント

お隣の瀬戸児童館では「父の日」を目前にした6月12日、ふた組の可愛い児童たちが父の日のプレゼントづくりに挑戦。最初は1歳～2歳児がお母さんと紙粘土を心ゆくまで練っている。やがて先生の説明に合わせて「にぎり仏」をつくりだす。この仏づくりの由来は、広島県尾道にある持光寺の「にぎり仏」にあるのだとか。適度な量の粘土を片手で持ち、指先がつく程度に握ると、両手を合わせた地蔵の形ができる。これにお母さんが耳をつけ、顔を描くと出来上り。これこそ究極のオリジナルの仏さま。

そしてこのプレゼントは、児童が大きくなったとき、自分の幼い時の手に出会えることにもなる。

また、0歳児はお母さんとの協働で粘土に手形を残そうと試みる。粘土の大きさ、厚み、手のひらを押しつける位置、指の開き

具合、深さなど実に微妙。

ハイハイして逃げる幼児をつかまえて、ここにもプレゼント兼子どもへの記念の作品が完成した。



「人権のつどい日」にひろう



6月11日（火）は社会福祉士の山本豪さんによる『人の権利を護るといこと』と題する講演を聴くことができた。先般、知的障がいがある女性が後見人をつけることで奪われていた選挙権を、裁判で取り戻したという報道があり、テレビで話題になった。

この判断能力を有しない高齢者や知的障がいのある人などに代わって、財産管理と身上監護（生活支援）をするのが成年後見人だとか。そして権利書や預金通帳、印鑑等財産に関するものを預かり、銀行で名義書き換えの手続きをして、例えば「西郷隆盛成年後見人山本豪」のようになる。すると本人の印鑑は通用なくなり、本人単独では扱えない。後見人の仕事はまだある。本人が施設に入所する場合、これまで住んでいた家をどうするか。売却？残された仏壇の扱いは？もし借家住まいだったらどうする・・・次々と広がり、続く。後見人の仕事は「法的な決まりのガチガチの流れの中に手順があり、四角いものは四角く考えるなかで行われます。人の財産と人権を権利として『護る』という仕事です」と話された。また、講演内容の理解に資する資料がいくつも用意され、話し方もわかりやすく、参加者は大いに助かった。そのためか講演の後具体的な質問が続き、このテーマが現代社会にとって切実な課題であることを、参加した人の心に刻むことになった。

大勢の参加者で・・・ありがとう

瀬戸・寿連合自治会 会長 盛川 節子

去る6月2日（日）7時30分から瀬戸・寿連合自治会による国道11号バイパスの環境美化作業を行いました。朝から生憎のお天気で、いつ雨が降り出してもおかしくない空模様でしたが、100人近い人たちが参加していただいたおかげもあって、1時間ほどで終了しました。自治会員の皆さま、ありがとうございました。

今、泉川のまちは、公民館を活動拠点として「自分たちでできることは自分たちでやろう」というキャッチフレーズで取り組んでいて、私たちもその一役を担っています。次回はあなたも参加してみませんか。7月28日は市民一斉清掃日です。今後とも自治会員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

7月公演回転木馬おはなし会

7月3日予定 10:00～11:00 瀬戸児童館



パソコン・ワード初心者&シニア講座 生徒募集

パソコンの基礎を学習し、ワードで案内状、年賀状、名簿、地図、ラベルやカレンダーなどを作成する講座です。

8月21日（水）10:00～スタート 【全60回】

【日時】毎週水曜日（月4回）10時00分～11時30分

【会費】月2500円（別途テキスト・材料500円）

【場所】瀬戸会館 TEL 080-6380-0393（小野）